



Open Portfolio Review

公開ポートフォリオレビュー
2026/08/01(Sat)・08/02(Sun)

42nd / 2026
HIGASHIKAWA
INTERNATIONAL
PHOTO
FESTIVAL

写真の町東川町は第42回東川町国際写真フェスティバル「公開ポートフォリオレビュー」の参加者を募集します。皆様のご参加をお待ちしております。

公開ポートフォリオレビューとは

「公開ポートフォリオレビュー」は参加者が自身のポートフォリオを持ち込み、写真界・出版界の第一線で活躍する方に直接講評を受けることができる企画です。講評を受ける場としてだけでなく、作品をレビュアーに売り込み、レビュアーと今後のつながりを持つための場としてもご活用ください。今年も4名のレビュアーをお迎えし、1対1で20分間あなたの写真について様々なアドバイスをいたします。

開催日時

8月1日(土) 10:00～12:00 レビュー実施

8月2日(日) 9:50～11:00 レビュー実施

※ 両日9:30より会場にてチェックインと簡単なオリエンテーションを行います。

開催場所

東川町文化ギャラリー スタジオ 北海道上川郡東川町東町1-19-8

募集締切

7月17日(金)

募集定員

8月1日(土) 25名/8月2日(日) 15名

参加費

レビュアー1名に対し/1,000円 (1日あたり最大2名までレビューが受けられます。)

応募資格

年齢、国籍、プロ、アマを問いません。写真のジャンルやテーマも一切問いません。参加資格の目安としては一つにまとめた形の写真作品(ポートフォリオ等)を写真のエキスパート(ギャラリスト及び編集者など)にレビュー出来る方。

その他

参加者宿泊場所等のご案内について

- 参加者の方でご希望の方は会場近くの無料宿泊施設をご利用いただけます(8月1日夜の宿泊)。個室はございません。合宿形式(男女別相部屋)でのご宿泊となります。(素泊まり)なお、簡易宿泊所ですので多少の不便がありますことを予めご承知おください。
- キトウシの森 きとろんの入浴券を販売いたします(500円)。数に限りがございますので、事前にお申し込みいただいた方から順に、お一人さま1枚まで頒布いたします。(8月1日夜には、入浴場所までの送迎バスがあります)

※ 宿泊、入浴券ご希望の方は参加申込フォームにて宿泊/入浴券購入希望の選択をお願いします。

※ 先着順でのご案内となります。定員に達した場合、ご利用できない可能性があります。

※ 出展者の皆様には、ご自身でご移動についての手配、ご負担を行っていただきます。あらかじめご了承ください。

本件のお問い合わせ

東川町写真の町実行委員会事務局 〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1丁目19-8

東川町写真の町課写真の町推進室 / 写真の町東川町文化ギャラリー (担当:吉里・成井)

TEL:0166-82-2111(内線591) FAX:0166-82-4704 Email: town.of.photo1985@gmail.com

レビュアー紹介

飯沢 耕太郎 IIZAWA Kotaro ※8/2(日)のみ

写真評論家。詩人。きのこ文学研究家。1954年、宮城県生まれ。1977年、日本大学芸術学部写真学科卒業。1984年、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。現在、大阪芸術大学客員教授。東京総合写真専門学校などで講師を務める。主な著書に『写真美術館へようこそ』(講談社現代新書1996)、『私写真論』(筑摩書房2000)、『デジグラフィ』(中央公論新社2004)、『きのこ文学大全』(平凡社新書2008)、『写真的思考』(河出ブックス2009)、『きのこ文学名作選』(港の人2010)、『深読み! 日本写真の超名作100』(パイインターナショナル、2012)、『フングス・マギクス 精選きのこ文学涉猟』(東洋書林2012)、『キーワードで読む現代日本写真』(フィルムアート社、2017)、『トリロジー 冬/夏/春』(港の人、2024)、『宮沢賢治きのこ文学集成』(作品社、2025)などがある。

ジグメド・バヤルマグナイ Jigmed Bayarmagnai

フォトグラファー。モンゴル出身。モンゴル写真家協会、モンゴル外務省、モンゴル文化省での勤務を経て、モンゴルの自然、文化、人々の暮らしをテーマに撮影を続けている。日本とモンゴルを中心に活動し、2024年に写真集『Mongolia, Land of Nomads』を刊行。現在は北海道を拠点に活動している。

高橋 朗 TAKAHASHI Sayaka

PGI ギャラリーディレクター。早稲田大学第二文学部に於て平木収氏に師事。在学中、東川町国際写真フェスティバルにボランティアスタッフとして参加。その後、PGIにて写真の保存・展示に関する業務に携わる。2003～2010年まで同フェスティバル現場制作指導/アシスタントディレクターを務める。2010年からPGIのディレクターとして展覧会の企画運営を担当。石元泰博、川田喜久治など戦後日本写真を代表する写真家の展覧会などを手がける。また、若い才能を発掘することにも重きを置いている。

速水 惟広 HAYAMI Ihro

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO(東京国際写真祭)ファウンダー。写真雑誌編集長やギャラリーディレクターを経て、2017年に上野公園にて東京で初となる屋外型国際写真祭「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」を開催。その後、2020年より東京駅東側エリアに舞台を移す。これまでに手掛けた主な企画展に「態度が<写真>になるならば」(共同キュレーターマーク・フューステル2023)、「TheEveryday - 魚が水について学ぶ方法 -」(共同キュレーターきりとりめでる、2022)ほか。海外の国際写真祭やアワードにおける審査員など多数。日本大学芸術学部写真学科非常勤講師。

原 美樹子 HARA Mikiko ※8/1(土)のみ

写真家。1967年富山県生まれ。1990年慶應義塾大学文学部卒業。会社勤務を経て1992年に東京総合写真専門学校に入学、写真を学ぶ。1996年同校研究科卒業。1996年に初個展「Is As It」を開催。以降、クラシックカメラで撮影したスクエア・フォーマットのカラー作品を国内外の個展・グループ展で発表している。2017年に第42回木村伊兵衛写真賞、2023年に第39回写真の町東川賞国内作家賞受賞。写真集に『Hysteric Thirteen: Hara Mikiko』『Change』『Small Myths』他。

藤岡 亜弥 FUJIOKA Aya

1972年広島県生まれ。1994年日本大学芸術学部写真学科卒業。2007年新進芸術家海外研修制度(文化庁)の研修員としてニューヨーク滞在。終戦後70年が経過した広島のいまをとらえた『川はゆく』で2017年第41回伊奈信男賞受賞、2018年林忠彦賞、木村伊兵衛写真賞受賞。2023年写真の町東川新人賞を受賞。2024年広島文化賞受賞。京都芸術大学専任講師。

お申し込み方法

右記QRコードよりお申し込みください。その後、7月24日(金)に当日のスケジュール等について登録いただいたメールアドレスにお送りします。

※ 定員に達し次第、募集を締め切らせていただきます。

※ 申し込み後の辞退はやむを得ない場合を除きご遠慮願います。

※ 正常に申し込みが完了しましたらフォームの入力内容が登録いただいたメールアドレス宛に送信されます。

8/1(土)



8/2(日)

